

ファイザープログラム

心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援

2024 年度選考結果のご報告



患者さんの生活を大きく変えるブレイクスルーを生み出す

— 目 次 —

1. プログラム紹介	1
2. 2024 年度助成 応募状況	2
3. 2024 年度助成対象プロジェクト一覧	4
4. 選考経過と助成の特徴	6
5. 助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由	11

プログラム紹介

ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援は、ヘルスケアの視点を重視したより良い社会への寄与を目的として、心とからだのヘルスケアの分野で活躍が期待される市民活動・市民研究を応援する助成プログラムです。

第24回となる本年度は、全国から58件のご応募をいただき、そのうち14件（助成総額1,870万円）が選考委員会による厳正なる選考の結果、助成対象プロジェクトとして選ばれました。

■ プログラム創設の目的

- (1) ヘルスケアの領域で今後一層の活躍が見込まれる市民活動を発掘し、その活動を後押しすること
- (2) これからの社会の担い手として重要な役割が期待される市民活動自体の社会的認知を高めること

■ プログラムの特徴

- (1) ヘルスケアを広く捉え、本業（医薬品の開発と提供）だけでは十分に満たすことのできないヘルスケアの分野で活動する市民団体を支援対象としていること
- (2) 政府や自治体などの公的機関からのサービスや社会資源が十分に整っていない分野における市民活動とともに、市民研究も重点的に支援していること
- (3) 団体としての過去の実績ではなく、その団体が取り組もうとしているプロジェクトの独創性・試行性に評価の重点を置いていること
- (4) 単年だけではなく、継続した支援も行なっていること
- (5) プロジェクトに携わる人の人件費や、事務所家賃・光熱費などの事務局経費も前向きに助成すること
- (6) 中間時点でのインタビュー実施によるフォローアップを行なっていること
- (7) 市民活動・市民研究の社会的認知の向上を目的とした広報活動も重視していること

■ 助成対象

心とからだのヘルスケアに取り組む市民活動および市民研究

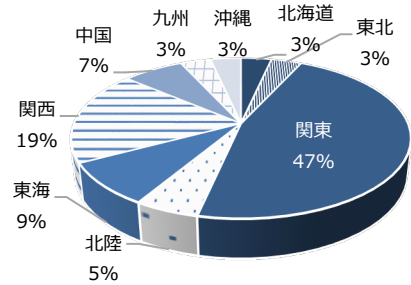
■ 選考委員会

委員長	青木 聖久	日本福祉大学 福祉経営学部 教授
委員	磯野 真穂	東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院 教授
委員	清田 仁之	特定非営利活動法人 月と風と 代表
委員	森 幸子	一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会 理事
委員	横田 能洋	特定非営利活動法人 茨城 NPO センター・コモンズ 代表理事
委員	喜島 智香子	ファイザー株式会社 コミュニティ・リレーション部 スペシャリスト

2024 年 12 月

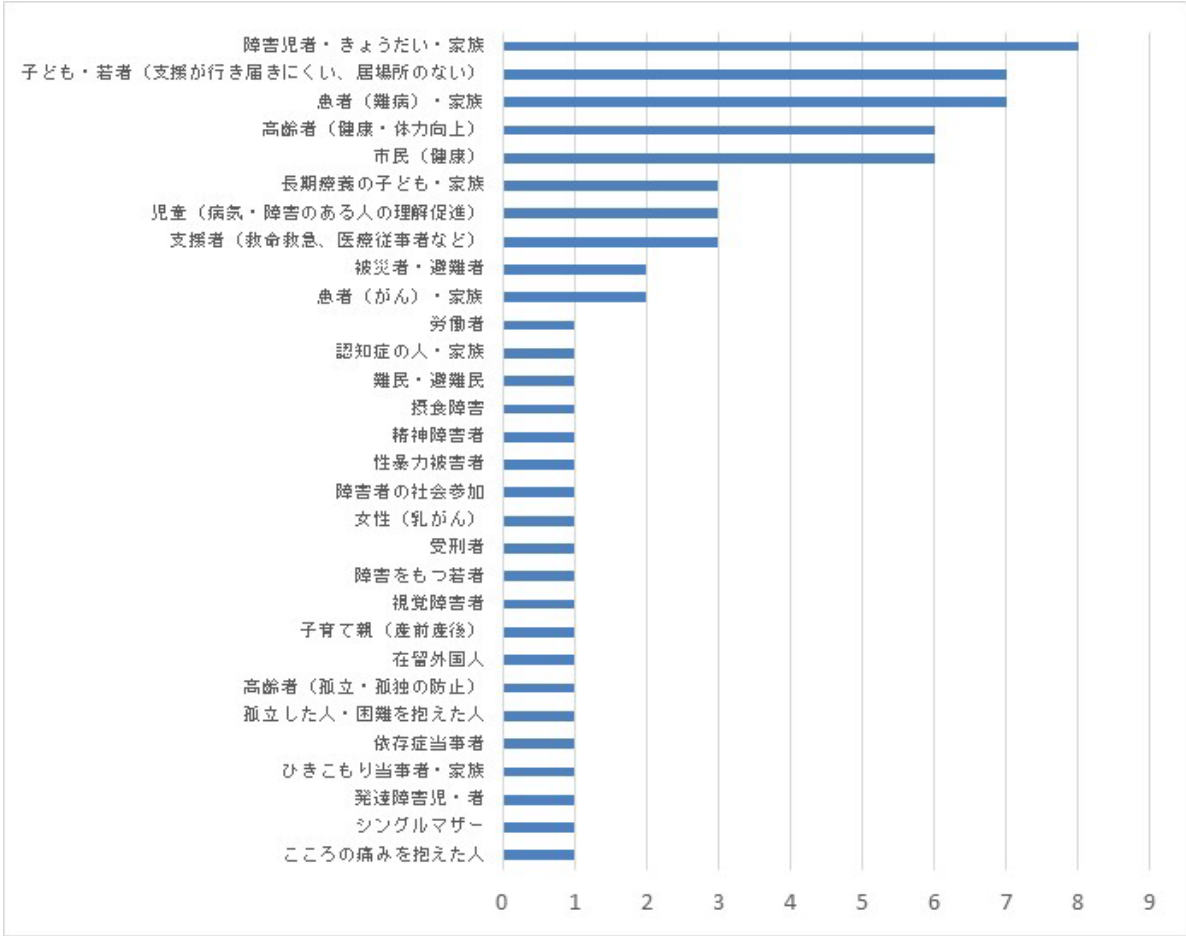
2024 年度助成 応募状況

1. 団体所在地



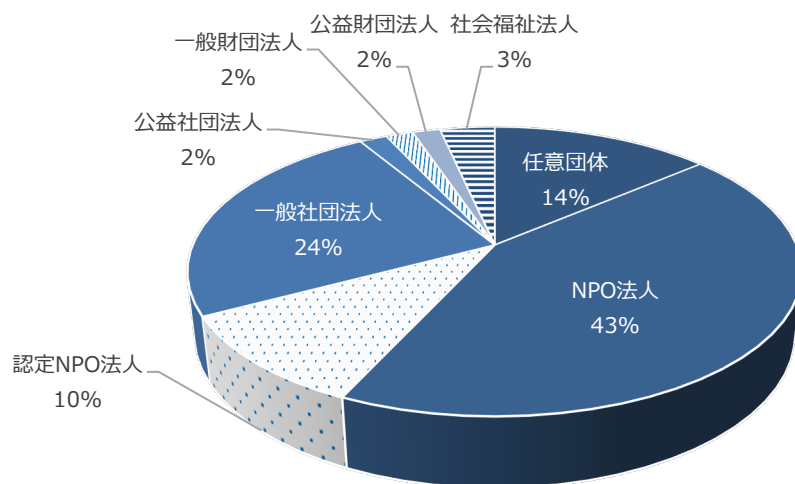
	都道府県	団体数		割合		都道府県	団体数		割合
北海道	北海道	2	2	3.4%	関西	滋賀	1	11	19.0%
東北	青森		2	3.4%		京都	2		
	岩手					大阪	4		
	宮城	1				兵庫	4		
	秋田					奈良			
	山形					和歌山			
関東	福島	1	27	46.6%	中国	鳥取		4	6.9%
	茨城					島根	1		
	栃木					岡山	1		
	群馬					広島	1		
	埼玉	1				山口	1		
	千葉	2			四国	徳島		0	0.0%
	東京	18				香川			
	神奈川	6				愛媛			
甲信越	山梨		0	0.0%	九州	福岡	2	2	3.4%
	長野					佐賀			
	新潟					長崎			
北陸	富山	1	3	5.2%		熊本			
	石川	2				大分			
	福井					宮崎			
東海	静岡	2	5	8.6%		鹿児島			
	愛知	1				沖縄	沖縄		
	岐阜	2			計			58	58
		三重							

2. 支援対象の分類

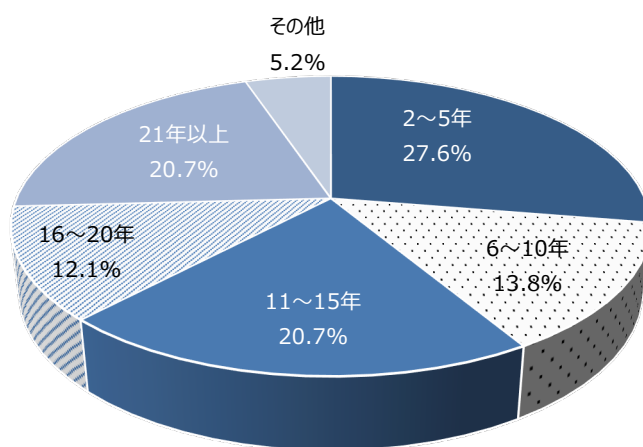


3. 組織形態

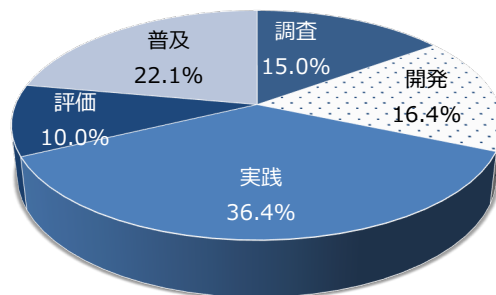
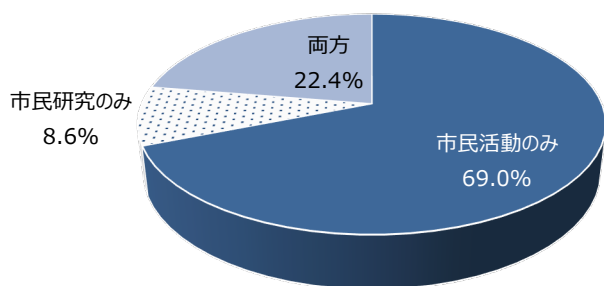
○法人格



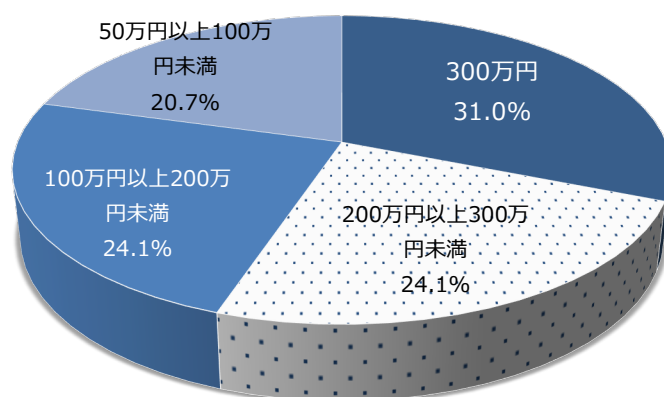
○活動年数



4. 応募種別



5. 応募金額



2024 年度助成対象プロジェクト一覧

	助成 年数	活 動	研 究	プロジェクト名	団体名	代表者	所在地	助成額 (万円)
1	1 年 目	○		原発事故被災地の熟議型対話によっ てコミュニティエンパワメントを促 進する事業	特定非営利活動法人 福島ダイアログ	鎌田 陽子	福島	50
2	1 年 目	○	○	ホームレス・生活困窮者を対象とした 路上巡回活動および居場所づくり活 動	特定非営利活動法人 ほっとプラス	平田 真基	埼玉	130
3	1 年 目	○		ひきこもり本人と家族の居場所事業	特定非営利活動法人 楽の会リーラ	市川 乙允	東京	140
4	2 年 目	○	○	難病者の社会参加をサポートする「ト リセツ」等の開発・実践	認定NPO法人 両育わーど	重光 喬之	東京	240
5	2 年 目	○		反貧困ネットワーク居場所交流事業 『Champoraーちゃんぽらー』	一般社団法人 反貧困ネットワーク	宇都宮 健児	東京	240
6	3 年 目	○		ものづくりを通して性被害当事者が 安心して社会復帰を目指せる居場所 の確立	一般社団法人 OHANA	赤松 未来	神奈川	280
7	1 年 目	○		がん経験者に特化した就労支援事業 ～がんを経験していても働きやすい 世の中に～	特定非営利活動法人 ピュアスマイルスタジ オ	下澤 純子	神奈川	50
8	1 年 目	○	○	がん経験者が語る希望と勇気「がん教 育」で未来を照らす！	一般社団法人 神奈川県がん患者団体 連合会	天野 慎介	神奈川	120
9	1 年 目	○	○	若年層の予期せぬ妊娠を防ぐ、緊急避 妊薬の入手ハードルに関する調査	一般社団法人 ソウレッジ	鶴田 七瀬	静岡	170
10	2 年 目	○		薬局等従業者向けの「やさしい日本 語」を使った対応力向上のための動画 作成	「やさしい日本語」を 広める会	宮島 みどり	京都	50

2024 年度助成対象プロジェクト一覧

	助成 年数	活 動	研 究	プロジェクト名	団体名	代表者	所在地	助成額 (万円)
11	1 年 目	○		がん患者：心とからだの健康支援 つ ながりファーム活動	特定非営利活動法人 つながりひろば	笹田 友恵	大阪	130
12	2 年 目	○	○	10 代から 20 代の若者へのグリーフサ ポートの在り方を探る	特定非営利活動法人 グリーフサポート・リヴ	佐藤 まどか	大阪	140
13	1 年 目	○		過疎地域の困難を抱える高齢者やこ どもへの包括支援	社会福祉法人 敬愛福祉会	横張 寿希	島根	80
14	1 年 目	○		こどもたちに「いのちのおはなし」を 届けよう	いのちのおはなし岡山	宇野 香織	岡山	50
助成総額〔14 件・合計〕 1,870 万円								

(2024 年度の助成期間は 2025 年 1 月 1 日～12 月 31 日です)

選考経過と助成の特徴

選考委員長 青木聖久

【はじめに】

本年度（2024 年度）の応募件数は 58 件（昨年度 67 件）で、昨年度から 9 件の減少が見られました。都道府県別では、甲信越、四国を除くブロックから応募をいただきました。その割合は、関東圏が最も多く 46.6%、次いで関西圏が 19.0%、東海圏が 8.6%、中国圏が 6.9%の順となりました。特徴として、関東圏と関西圏を除けば、地域の偏りが少ないことと、久しぶりに沖縄からの応募があったことが挙げられます。

予備選考では 38 件が選出され、昨年度よりも 2 割強の件数が本審査の対象となりました。本審査対象プロジェクトは、いずれも心とからだのヘルスケアにおいて重要な課題に取り組んでおりました。そして、後述するように、複数の選考を経て、特にファイザープログラムに合致し、発展性のある 14 件を助成対象に決定しました。以下に、選考過程と結果を示します。

【選考経過と結果】

選考は、以下の日程および手続きにより実施されました。

- ・ 応募期間：2024 年 6 月 10 日（月）～6 月 21 日（金）

応募件数：58 件（参考：2023 年度 67 件）

- ・ 予備選考委員会：7 月 16 日（火）

選考結果：本審査対象 38 件を選出

- ・ 書類選考：7 月 19 日（金）～8 月 21 日（水）

- ・ 本選考委員会：8 月 28 日（水）

選考結果：助成候補 15 件を選出

- ・ 事務局ヒアリング：9 月 9 日（月）～9 月 25 日（水）

- ・ 選考委員長決裁：10 月 2 日（水）

助成決定：助成件数 14 件、助成総額 1,870 万円

【書類選考・選考委員会】

書類選考は、委員長も含めて 6 名の選考委員によって行われました。各委員が、専門性をもとに、ファイザープログラムのテーマとする「心とからだのヘルスケア」に関する市民活動・市民研究支援という視点から、選考基準に沿って評価を行いました。この審査においては、各委員が推薦 6 件、準推薦 3 件の計 9 件を選出し、評価結果と推薦理由および助成にあたっての課題を提出しました。

その結果、「推薦 4」の評価を受けたプロジェクトが 1 件、「推薦 3」が 1 件、「推薦 2+準推薦 2」が 1 件、「推薦 2+準推薦 1」が 4 件、「推薦 2」が 3 件、「推薦 1+準推薦 2」が 1 件、「推薦 1+準推薦 1」が 4 件、「推薦 1」が 8 件、「準推薦 2」が 1 件となりました。選考にあたっては、「推薦 1+準推薦 1」以上の全てのプロジェクトに対して、各委員が評価できる点と課題、改善点などを述べ、その後に議論をするというステップを踏みました。加えて、「推薦 1」、「準推薦 2」のプロジェクトについても、各委員から意見を聞き、助成の可能性を探りました。その際、意見が分かれた場合は、さらに推薦のポイントや問題点などを具体的に提示し合い、全委員が納得するま

で議論を重ねて「助成候補」を決定しました。

選考委員会では助成候補 15 件を選出し、その後に行われた事務局から各団体へ対面、あるいは、オンラインヒアリングの結果を受けて、最終的に委員長決裁にて 14 件を助成対象として決定しました。

【助成プロジェクトの特徴】

2024 年度の選考において採択された新規プロジェクトの特徴は、次の通りとなります。

1. 社会での自立や社会参加を目指した居場所づくり

『ものづくりを通して性被害当事者が安心して社会復帰を目指せる居場所の確立』（一般社団法人 OHANA）は、性被害当事者が来たいときに来ることができ、支援者や地域の人たちとの交流をし、作品や作物を完成させていく過程のなかで、時間をかけながら居場所づくりを目指します。これらのことを通して、性被害当事者の自尊心の回復、さらには、社会の性被害についての理解、性被害当事者や関係者の孤立防止が期待できます。

『反貧困ネットワーク居場所交流事業『Champoraーちゃんぽらー』（一般社団法人反貧困ネットワーク）は、社会で孤立無援状態にある相談者やシェルター入居者、卒業者などの貧困者に向けて交流スペースや、おでかけ企画などによって、人々がつながる場づくりを目指します。加えて、フードバンク、定期相談会など、活動に厚みを持たせることも計画されており、本プロジェクトは、孤立・孤独対策、貧困などの社会課題の解決が期待できます。

『ホームレス・生活困窮者を対象とした路上巡回活動および居場所づくり活動』（特定非営利活動法人ほっとプラス）は、ホームレスや生活困窮者を主な対象とした路上巡回活動、相談会の開催、住まいの確保や生活支援、居場所づくり、さらには医療関係者とのつながりの可視化も目指します。これらの活動を通して、支援対象者の心身の健康維持はもとより、社会につながっていない人の課題の抽出や社会の取り組むべき事柄の提起が期待できます。

『ひきこもり本人と家族の居場所事業』（特定非営利活動法人楽の会リーラ）は、家族会と協働しながら、ひきこもりの本人や家族を対象に、訪問したり、居場所の提供をします。また、インターネット上にバーチャル居場所としての、メタバース居場所を開催することで、ひきこもりの本人が他者とつながることを目指します。また、これらのプロジェクトは、行政や社会福祉協議会との連携を大切にするものであり、特に、ひきこもりサポーターの活躍が期待できます。

2. 疾患や障害がある人の暮らしにおける機会創出

『難病者の社会参加をサポートする「トリセツ」等の開発・実践』（特定非営利活動法人両育わーど）は、難病者の体調の悪化要因や業務状況等を可視化することによる体調コントロール方法を容易に習得できるサービス、難病者自身が自らの体調を第三者に説明するための「トリセツ」の開発及び実践を目指します。このことによって、難病者が企業で働くことをはじめとして、社会参加が期待できます。

『がん患者：心とからだの健康支援 つながりファーム活動』（特定非営利活動法人つながりひろば）は、がん患者やスタッフが集まり、専門家の指導を受けながら季節の野菜や果物を栽培する「つながりファーム」での農作業を通して、社会参画を実現していくことを目指します。これらの活動によって、がん患者にとっては、治療による副作用や後遺症に向き合いながらも、暮ら

しの楽しみ、さらには生きがい期待できます。

『がん経験者に特化した就労支援事業～がんを経験していても働きやすい世の中に～』（特定非営利活動法人ピュアスマイルスタジオ）は、がん経験者の居場所を、社会とつながる場として提供すると共に、就労支援として、再就職、時間労働、起業という3つの視点から支援を目指します。これらのことによって、がん経験者が企業とつながったり、独自の働き方が生み出されたり、さらには、社会のがん経験者の暮らしや就労に対する理解が期待できます。

『がん経験者が語る希望と勇気「がん教育」で未来を照らす！』（一般社団法人神奈川県がん患者団体連合会）は、小中学校、高校、大学において、がん経験者によるがん教育授業として、経験談を伝えることで、子どもたちの生きる力に寄与できることを目指します。このことによって、授業の受け手側の健康教育としての効果はもとより、がん経験者やさらには教員や関係者にとっても、命の尊さをはじめ、生き方の多様性を知ることが期待できます。

3. 社会が抱えている課題への周知と対応

『若年層の予期せぬ妊娠を防ぐ、緊急避妊薬の入手ハードルに関する調査』（一般社団法人ソウレッジ）は、妊娠前のケアとして、緊急避妊薬の無償化による効果について、調査分析、及び政策提言を目指します。具体的には、若年層の予期せぬ妊娠の課題、緊急避妊薬の入手ハードルの可視化というものです。これらを通して、若年層における緊急避妊薬の必要性について、国や行政機関はもとより、世論の喚起が期待できます。

『こどもたちに「いのちのおはなし」を届けよう』（いのちのおはなし岡山）は、小中学校や高校で、助産師を中心にした人たちが「いのちのおはなし」をすることによって、子どもたちが、自らの有する力や、応援してくれている人たちの存在を知ることを目指します。これらを通して、子ども及び周囲の人たちが、自己肯定感に気づき、自分及び周囲の力や、互いに認め合うことの醸成が期待できます。

『10代から20代の若者へのグリーフサポートの在り方を探る』（特定非営利活動法人グリーフサポート・リヴ）は、自死遺族の若者が、以前受けたインタビューでは語り切れていなかったり、あえて、言わなかったような事柄について、少人数での語る場をつくります。また、そのことについて、周囲の大人が聞く機会を得ることによって、子どもを取り巻く環境の新しい形を目指します。これらを通して、若者遺族に対する社会の関心の喚起と理解が期待できます。

『原発事故被災地の熟議型対話によってコミュニティエンバウメントを促進する事業』（特定非営利活動法人福島ダイアログ）は、被災者、移住者、支援者をはじめ、福島県内外の関係者を招いた対話集会を開催します。そこでは、熟議型の議論を促し、構造型の戦略的対話方式によって、深く、現実的でありつつも、効果的なものを目指します。これらを通して、被災地全体の復興と共に、被災地の人々のウェルビーイングが期待できます。

4. 多様性に富む社会づくりの構築

『薬局等従業者向けの「やさしい日本語」を使った対応力向上のための動画作成』（「やさしい日本語」を広める会）は、外国人住民と薬局・ドラッグストア従業者との良好なコミュニケーションのため、「やさしい日本語」の有用性を検証し、積極的な利活用の促進を目指します。そのため、実践的な動画教材の作成に取り組みます。これらを通して、多くの言語や文化背景のある人たち相互のコミュニケーションはもとより、多様な地域づくりが期待できます。

『過疎地域の困難を抱える高齢者や子どもへの包括支援』（社会福祉法人敬愛福祉会）は、子どもを対象とする「放課後児童クラブ」と、高齢者を対象とする「デイサービス」を利用する人、及び、近隣の高齢者、さらには、子育て世代の人が交流することを通して、多世代交流ができる居場所づくりを目指します。また、支援が必要な地域の人に配食サービス等も提供します。これらの取り組みを通して、子どもから大人までの包括的な支援システムが期待できます。

【おわりに】

私はソーシャルワーカーとして36年間、多くの人や団体、地域にかかわってきたなかで、これまで、顕在的課題と潜在的課題の2つについて考えることが多かったです。ちなみに、顕在的課題とは、当事者や周囲から、実際に声があがっていたり、視覚的に課題が一定程度伝わるもののことを指します。それに対して、潜在的課題とは、当事者や周囲から、特段、必要性が述べられていなかったり、課題として気づきにくいもののことを指します。

さて、私自身、2018年度よりファイザープログラムの選考委員を務めさせていただき、2022年度からは委員長の大役を仰せつかっています。振り返りますと、この7年間の多くの企画書には、まさに、潜在的課題が多く含まれておりました。また、今年度の企画書は、各団体の息づかいが伝わるようなものばかりでした。

これらの企画書を見るたびに、ファイザープログラムが果たす社会的意義を感じずにはおられません。それは、一定の課題が見つかり、それが個人的な問題でなく、社会的課題だということがわかれば、通常は、国や自治体という行政機関が取り組むことになるからです。ところが、行政機関は必ずしも、それらのことに対応するとは限りません。

なぜなら、行政機関は、天災事変等を除けば、新規、平等、慣例という点を考慮することが多いと考えられるからです。まず新規は、いくら社会の課題だということがわかったとしても、初めての取り組みに対して、行政機関が慎重になる傾向が見られるというものです。次に平等は、ある地域において、必要性が生じて、他地域とのバランスに目を向けるというものです。最後に慣例は、過去の事柄との関係性から、前例や社会の標準に目を向けてしまう部分が少なくないというものです。

そのようななか、ファイザープログラムは、目の前の人々の暮らしに目を向け、必要と考えられるものには思い切って助成をしております。いや、そこが特長であり、だからこそ、多くの団体の方々が、応募してくださっているのでしょう。

2024年度は、58の団体の皆さんが、これまでの活動を通じて、顕在的課題、潜在的課題の両面から気づかれたことについてプロジェクトにまとめ、実際に応募されています。これらの各市民団体の視点や発想は、本当に貴重なものだと感じており、敬意を表したいと存じます。

最終的に助成を決定したのは、14団体となりました。ですが、残念ながら今回助成に至らなかった団体におかれましては、今後も市民活動や市民研究を継続され、再度の応募を検討して下さることを願っております。

最後に、2024年度の選考を終え、いま・ここで、応募された58の団体、そして、次年度以降に応募される団体、さらには関係者の方々に対して、思いを伝えさせていただきます。

1990年代、日本ではバブル経済が崩壊した頃に、「格差社会」という言葉が使われるようになりました。それは、中間層が減り、富裕層と貧困層に社会が分断され、貧困な世帯で育つと、そ

の状況から脱することが難しく、いくら努力をしようとも貧困連鎖から脱出することが難しい状況に陥るというものです。したがって、富裕層と貧困層の間に大きな格差を生じさせてしまう社会を、格差社会と呼ぶようになりました。

ただし、重要な論点は、この続きです。この実態に対して、社会の多くの人たちが、何について、許すことができないと言ったのでしょうか。結果の格差でしょうか。そうでは、ありませんでした。一定の工夫や努力によって、結果的に経済的な差が出ることに對しては、社会の多くの人寛容だったのです。

ところが、断じて許すことができないとしたのは、機会の格差。誰しも、当たり前前に幸せでありたいと願うと共に、どのような状況であろうが、人はチャレンジしたいのです。ところが、人は自身の環境が貧困だったり、あまりにも混んとしておれば、常に余裕が生まれません。また、他者とつながる環境がなく、社会において、自分の居場所が見つけれられないでいると、日々の楽しみに気づいたり、ワクワクするような未来志向の考え方がしづらくなります。

話を戻します。社会では、出身世帯、地域、疾患や障害をはじめとする社会的事故によって、精神的、身体的な健康が損なわれたり、経済的に厳しい状況になってしまうことがあります。そして、これらの結果、社会的孤立状態に陥ってしまう場合も少なくありません。

では、そのような状況になってしまえば、人は、その後の人生をあきらめないといけないのでしょうか。仮にそうだとすれば、そのような社会は、弱くてもろいと言わざるを得ません。

誰もが自らの人生の主人公として、生きる・暮らす・よりよく暮らすためには、豊かな環境を得るための機会が必要です。誰しも、当たり前前に幸せを目指し、チャレンジするためには、教育を受ける、雇用や起業の機会を得ることが大切となります。さらに、以下のようなことも重要となるでしょう。

人として、大事にされていることが実感できる場がある。

失敗しても、再度チャレンジする機会がある。

自己実現の形を変更したり、新たなものを創造したくなる多様性を認める社会が形成されている。

これらのことを踏まえれば、今回採択された 14 件のプロジェクトは、前述の 4 つの小見出しに記したように、**1. 社会での自立や社会参加を目指した居場所づくり**、**2. 疾患や障害がある人の暮らしにおける機会創出**、**3. 社会が抱えている課題への周知と対応**、**4. 多様性に富む社会づくりの構築**に収斂（しゅうれん）されています。まさに、私たちが求めている社会のあり方につながる取り組みだと言えます。

誰にとっても、一度きりの人生です。きっと、人が最期に振り返るのは、我が人生、どれくらいうれし涙を流すことができたのか、感動した出来事があったのか、他者と一緒に清々しい汗をかく機会を共有できたのか、ということではないでしょうか。これらは、到底一人では達成できません。全てのドラマは社会でうまれます。ぜひ、魅力的な社会を、みんなで育てていこうではありませんか。

皆さんの今と未来を、心より応援しています。

助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由

プロジェクト名：	原発事故被災地の熟議型対話によってコミュニティエンパワメントを促進する事業
助成種別：	市民活動
団体名：	特定非営利活動法人 福島ダイアログ
代表者名：	鎌田 陽子
所在地：	福島県

本団体は、原発事故後のコミュニティが離散し、地域のウェルビーイングが損なわれた状態にある避難地域で、あらたなコミュニティ活動をエンパワメントし、ウェルビーイングを改善していく地域の将来像について、福島県内外の関係者（被災者、移住者、支援者、国内外の専門家）を招いた対話集会（福島ダイアログ）を開催することを目的としている。

本プロジェクトは、熟議型の議論を促す構造化された戦略的対話方式（IDPA メソッド）を用い、対話集会での実践を通して、熟議型の対話が効果的であることを広く関係者に伝える。同時に、コミュニティエンパワメントを行う手法へ改善するため、さらなるブラッシュアップを行う。それらの成果を学術論文や研究集会などでの発表や、広報を通じて、災害後の地域復興と被災地での地域全体のウェルビーイングの改善のためのひとつの手法として確立することを目指す。

愚直に原発事故を風化させないための取り組みであり、プロジェクトが進むことは、支援の価値があると思う。また、市民団体が、いわきを拠点に変わらず事業を続けることに意義があり、継続が必要な取り組みであろう。

プロジェクト名：	ホームレス・生活困窮者を対象とした路上巡回活動および居場所づくり活動
助成種別：	市民活動 市民研究
団体名：	特定非営利活動法人 ほっとプラス
代表者名：	平田 真基
所在地：	埼玉県

本団体は、埼玉県内を中心にホームレス・生活困窮者を主な対象とした路上巡回活動および居場所づくり活動、相談会を開催し、住まいの確保や生活支援、居場所づくり、心身の健康維持に向けた活動に取り組んでいる。

昨今、ホームレス・生活困窮者の中でも高齢化が進み、加えて心身の健康問題を抱えている人たちが増えており、医療的なサポートのニーズが高まっている。そのため、本プロジェクトは、医療関係者とも連携しながら、当事者の相談事業、ニーズ調査等を通じて、医療的なサポート体制の構築を目指すとともに、生活困窮者における健康問題についての新たな知見を得るものである。医療的なサポートに取り組む点や、それをもとにした調査結果には関心が高まる。

本プロジェクトが、生活困窮者の方々と、地域社会との支えあい助け合い社会に継続性を持たせるものとなるよう期待したい。

プロジェクト名：	ひきこもり本人と家族の居場所事業
助成種別：	市民活動
団体名：	特定非営利活動法人 楽の会リーラ
代表者名：	市川 乙允
所在地：	東京都

本団体は、ひきこもり当事者の社会参加に向け当事者が自立した生活を送れる健全な社会を実現することを目的に、ピアサポーター、カウンセラー等による相談事業、居場所事業、研修事業など各種支援事業を行っている。

ひきこもり当事者からの相談を受けた後、次のステップとして団体の居場所への来訪を促すが、電話はかけられるものの電車に乗ることに恐怖を感じる等、外出が困難な人たちの存在に気づくに至った。そのため本プロジェクトでは、居場所事業そのものを複数個所に出張して行う「居場所の出前」の実施と、それすら難しい当事者に向けて仮想空間の「メタバース居場所」づくりに取り組む。自前の居場所にとどまらず、他のひきこもり支援団体と協力し、当事者の状況に寄り添いながら社会との接点を作り孤立状態からの解放を促す。

もともと多くの家族会や支援団体とのネットワークを持つ団体である。プロジェクト終了後には、活動の意義や価値を振り返り、言葉にし広く社会に発信してほしい。その結果、ひきこもり当事者を取り巻く状況が一步でも改善されることを期待したい。

プロジェクト名：	難病者の社会参加をサポートする「トリセツ」等の開発・実践
助成種別：	市民活動 市民研究
団体名：	認定 NPO 法人 両育わーど
代表者名：	重光 喬之
所在地：	東京都

本団体は、障害や難病のある当事者とその療養を支援する関係者の取り巻く環境を改善するための事業を通して、啓発や就労支援、団体運営支援等を行っている。

本プロジェクトでは、難病があっても働き、生きがいを得ることができる WEB 上の「セルフケアサービス」の開発及び実施を提案するものである。これまでも、難病当事者や雇用する企業への調査を重ね、「体調コントロール」、「会社や上司への説明」、「仕事との両立」へのサポートの必要性が明らかにされた。そこで、今回は、難病者が自身の体調を把握するとともに、体調について周囲に説明できる情報サービス「トリセツ」の開発と事業化に取り組む。

難病者が持つ不安、雇う側もどう配慮すればよいのか分からないという不安があるだろう。それらを軽減するためのコミュニケーションツールとして「トリセツ」をつくる。

この新たなアイデアをベースに、データに基づきながら果敢に開発取り組み、どのような成果をあげるのか注目したい。

プロジェクト名：	反貧困ネットワーク居場所交流事業『Champoraーちゃんぽらー』
助成種別：	市民活動
団体名：	一般社団法人 反貧困ネットワーク
代表者名：	宇都宮 健児
所在地：	東京都

本団体は、仕事や住まいを失った人々、公的支援から排除された日本国籍を持たない人々など、生活に課題を持ち孤立無援状態にある人にシェルターを提供したり、相談支援や福祉に関する提言活動を続けている。就労も制限され、十分な家賃を払えない人に住まいを提供することの必要性が増しているが、活動を継続するための財源確保は容易なことではない。

そうした居住支援に加え、本プロジェクトで目指しているのは、人との交流や体験の機会と場をつくることによる人の絆づくりである。そのような場づくりには、多様な課題を持つ当事者を中心に多様な組織がかかわる。人種、障がいの有無、性別、年齢をこえて混ざる中で何かを生み出すという理念が事業名「Champoraーちゃんぽらー」にも込められている。ゲーム、料理、創作活動、ボクシングなどをしながら様々な人生経験を積んできた人が、互いに助け合う関係性が生まれている。

今後の活動がどのように交流を広げたり深めたりしていけるのか、その成果の発信にも期待したい。

プロジェクト名：	ものづくりを通して性被害当事者が安心して社会復帰を目指せる居場所の確立
助成種別：	市民活動
団体名：	一般社団法人 OHANA
代表者名：	赤松 未来
所在地：	神奈川県

性被害の当事者の生活再建のためには、情報提供だけではなく安心して話せる人の存在と、ここなら安心できるという居場所や何かを創る活動が重要になる。

特に10年以上も前に被害にあい、未だに誰にも相談ができず抱え込む当事者からの相談内容は複雑化しており、民間のセーフティネットの構築が急務である。

本プロジェクトは、そのような居場所・創作の場としてハーブ等を加工するアトリエや農園を運営するほか、メールなどでの相談対応、週末の緊急宿泊所の運営も行う。自尊心の回復、心の癒しとなるものづくりの活動の充実に取り組む一方で、深刻な相談に対しても粘り強く関係機関と連携しながら対応に努力している。そうした地道な取り組みを通じて地域や行政機関との連携も深まっている。

緊急的なニーズにも対応しつつ継続的に立ち寄れる心の拠り所もつくるという本プロジェクトには大きな意義がある。地域の中で一人でも多くの理解者を増やし、中長期の支援体制の構築につなげてほしい。

プロジェクト名： がん経験者に特化した就労支援事業～がんを経験していても働きやすい世の中に～
助 成 種 別： 市民活動
団 体 名： 特定非営利活動法人 ピュアスマイルスタジオ
代 表 者 名： 下澤 純子
所 在 地： 神奈川県

本団体は、がん経験者が、がんに罹患することで人間関係や社会的な立場の変化が生じ、仕事を失い、社会とのつながりを絶たれた人も多いことから、当事者が仕事を通してもっと生きやすくなるための活動を行っている。

本プロジェクトでは、がん経験者と企業、それぞれの課題や必要な支援を把握し、専門職を繋ぎ、お互いに理解し合う働きかけとしてサロン活動を行うことで、多様な働き方の実現を目指す。

仕事の相談、起業への支援、がんの親を持つ子の学習支援、働きたい人と企業への就労を実現するための情報交換の場をリアル会場とオンラインで対応できる形にすることを目指す。

がん経験者にとっては、治療と仕事の両立支援となる取組みであり、がん経験者と企業の架け橋となるだろう。この活動が病を抱えた人たちや社会に対する就労問題の解決へと発展することに期待したい。

プロジェクト名： がん経験者が語る希望と勇気「がん教育」で未来を照らす！
助 成 種 別： 市民活動 市民研究
団 体 名： 一般社団法人 神奈川県がん患者団体連合会
代 表 者 名： 天野 慎介
所 在 地： 神奈川県

本団体は、がん患者・家族の治療やケア、生活や社会における課題の解決、がん医療の向上と安心して暮らせる社会の構築に寄与するため、がんの経験を社会的な価値と捉え、ピアサポートや学校でのがん教育等の活動を行っている。

本プロジェクトでは、小学校から高校、大学などで実施している、いわゆる「がん教育」についてより良い講義へと向上させるために、更なる充実を図り、がん教育の効果を最大限に引き出せる外部講師の養成研修等を行うものである。

授業を受けた子どもからの感想やアンケート集計、フィードバック解析を行い、さらに、より多くの学校等でがん教育が実施出来るよう、安定した講師派遣を行う体制基盤の整備を目指す。そこで培われた成果については、学会等で研究発表を行う。

文部科学省が掲げる目的にもある、“健康と命の大切さ”を主体的に考える力、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力を育む教育が、がん教育の充実によって発展されることを期待したい。

プロジェクト名：	若年層の予期せぬ妊娠を防ぐ、緊急避妊薬の入手ハードルに関する調査
助成種別：	市民活動 市民研究
団体名：	一般社団法人 ソウレッジ
代表者名：	鶴田 七瀬
所在地：	静岡県

本団体は、人々が心身共に健康な社会を実現することを目的とし、若者の予期せぬ妊娠や性暴力などの性にまつわる課題に向き合い、日常に性教育がある環境や避妊薬無償提供事業など課題解決を目指す活動を行っている。

本プロジェクトでは、性行為の経験がある女性を対象に避妊や性に関する意識、避妊の失敗や妊娠不安の経験、避妊薬に対する意識などの調査、当事者へのインタビュー等を行う。緊急避妊薬が必要な状況や、服用することのハードルなど、若者層の予期せぬ妊娠に関する課題および、緊急避妊薬無償化の必要性や効果を分析、可視化し報告会を実施する。あわせてメディアや議員への提言にも取り組む。

日本では、性教育の機会が少なく、また相談しにくい状況がある中で、これらの実態調査を踏まえた社会への提言発信は意義深い。問題の事実が正しく伝わり、当事者の声から課題解決に向かう政策提言へと発展することを期待したい。

プロジェクト名：	薬局等従業者向けの「やさしい日本語」を使った対応力向上のための動画作成
助成種別：	市民活動
団体名：	「やさしい日本語」を広める会
代表者名：	宮島 みどり
所在地：	京都府

本団体は、日本社会で生活する言語文化が異なる人々との、よりよい相互理解のために、「やさしい日本語」を用いて社会全体のコミュニケーション技術の向上に寄与することを目的としている。

2020年度の本助成を受け、外国人居住者がヘルスケアの課題を抱えたときに訪れる、身近な薬局・ドラッグストアにおいて、コミュニケーションに課題を抱えることから「やさしい日本語」に関する動画とパンフレットが作成された。

今回のプロジェクトは、この成果について、更なる展開を狙ったものである。薬局・ドラッグストア従業者へのヒアリング、外国人住民へのヒアリングを進め、外国人利用者が実際に店頭に来た際に起こりうる具体的な課題を取り上げる。「やさしい日本語」を用いて解決するための実践的な動画教材づくりに取り組む。あわせて作成した動画を用いた研修も行う。

作成される動画が広く、多くの薬局関係者の目に留まり、実践的に活用されるよう期待したい。

プロジェクト名：	がん患者：心とからだの健康支援 つながりファーム活動
助成種別：	市民活動
団体名：	特定非営利活動法人 つながりひろば
代表者名：	笹田 友恵
所在地：	大阪府

本団体の名称である「つながりひろば」には、がんと向き合う人たちが気兼ねなく話ができる「場」を作りたい、という願いが込められている。

がん当事者を対象にした団体は多く、また、それら団体が医療者によって立ち上げられていることも珍しくない。しかし本団体は、医療者が代表者でありながら、農作物を育てるファーム活動など、非医療的なアプローチを根本としている。まずもって、その点の新規性が高く、社会的意義が高い。

本プロジェクトでは、がん当事者にとってのファーム活動の有用性について、主観および客観的にデータ収集し検証を行う。ファーム活動の前後にスマートパルスを用いてストレスチェックを定量的に行い変化する心身の状態を調査・分析する。

アフガニスタンで活躍した医師の中村哲は、なぜ現地で患者が増え続けるのかを問い、その答えを水に求めて、用水路の開発に尽力した。本プロジェクトは、中村の理念につながることも感じられる。有用性の効果検証のみならず、地域との関係づくりにも期待したい。

プロジェクト名：	10代から20代の若者へのグリーフサポートの在り方を探る
助成種別：	市民活動 市民研究
団体名：	特定非営利活動法人 グリーフサポート・リヴ
代表者名：	佐藤 まどか
所在地：	大阪府

本団体は、1992年に活動を開始。子育て中の親子の支援に始まり、シングルマザーの会や自死遺族の語りの会などの経験を経て、グリーフを体験したおとな・子どもなどさまざまな生きにくさを抱える人のサポートを行う団体として2021年にNPO法人化された。

助成1年目は、10代から20代前半の若者の自死遺族の語る会を実施するとともに、彼らを支える同じく自死遺族であるスタッフ、自死遺族でないスタッフの学びを深めつつある。また、学校現場や子どもと関わる人たちから、若者の自死遺族をどう支えたらよいのかという相談もある中で、改めて子ども若者側の意見を聞く機会を作る必要性を実感した。

今回の取り組みでは、語る会の継続実施とともに、死別に限らず、グリーフを抱える中高生の支援、きょうだい児の支援、中高生の語りや集まりを行っている団体や、かつて若者だった当事者へのヒアリング等を行う。また、学校の先生たちとグリーフについて考える場を作っていく

声なき声をつかむ場をどのように作るのか、支える仲間をどう作るのか、今回の取り組みにより、さらに検討を進め、じっくりと着実に形にしていきたい。

プロジェクト名： 過疎地域の困難を抱える高齢者や子どもへの包括支援
助成種別： 市民活動
団体名： 社会福祉法人 敬愛福祉会
代表者名： 横張 寿希
所在地： 島根県

本団体は、人口減少が続く島根県美郷町・大田市において、お互いの存在をともに尊重し合う「自他共尊」の想いを理念とし、高齢者のデイサービス事業、居宅介護支援事業、放課後児童クラブ事業を行う社会福祉法人である。

本プロジェクトでは、本団体が運営する放課後児童クラブの空間において、高齢者と子ども、親子、地域住民が交流できる幼老複合施設の機能の充実をはかる。専属スタッフのコーディネートのもと、多種多様な試みを行い、世代の違う者たちが交流することで、どのような化学反応が生まれるのか、しっかり記録して欲しい。

このような過疎化が進む地域の社会福祉法人から発案された企画が日本全国に知られることで、同様の問題を抱える地域が触発されるのではないかと、いう相乗効果も期待する。美郷町の未来のみならず、他の地域の未来にも望ましい影響を与えることを願っている。

プロジェクト名： こどもたちに「いのちのおはなし」を届けよう
助成種別： 市民活動
団体名： 任意団体 いのちのおはなし岡山
代表者名： 宇野 香織
所在地： 岡山県

本団体は、岡山県内において「いのち」が生まれる現場（産科）、成長する現場（小児科）で働くメンバーが集い、子どもたちの「いきるちから」を伝えることを目的として活動している。自己肯定感が低い子どもや生まれてきたことを後悔している子どもが一定数いる中で、「いきるちから」を応援するまわりの人たちについて語り、子どもたち自身に、自分の「いきるちから」を感じてもらい、自分を好きになり、これからの未来の自分に夢や希望をもつ助けになるような活動を行っている。

本プロジェクトは、自分には「いきるちから」があることを実感してほしいと願い、岡山県内の小中高等学校などで、助産師を中心として「いのちのおはなし」の講演活動を行う。また、子どものみならず育児支援員やPTAに対するアプローチも行う。

助産師自身の語りは説得力があり、活動が引き継がれていることの継続性の高さも感じた。学校現場が行わないが必要な取り組みであるから、今後の講演活動以外にも幅のある活動の展開に期待したい。